



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/10 (月)							休日
1/11 (火)	+ 2,800	▲ 10,900	▲ 8,100	国庫短期証券発行 償還 (3M・6M) 国債発行 (30年)	CP等買入 国債補充供給	▲ 200 + 200	日: 景気先行CI指数 (11月)
1/12 (水)	+ 2,000	+ 2,000	+ 4,000				日: 国際収支: 経常収支 (11月) 日銀地域経済報告 (さくらレポート) 米: CPI (12月) 地区連銀経済報告 (ページブック)
1/13 (木)	+ 1,000	▲ 36,000	▲ 35,000	国債発行 (5年) 源泉税揚げ		社債等買入 + 1,250	米: PPI (12月)
1/14 (金)	+ 1,000	+ 2,000	+ 3,000		国債買現先	▲ 20,000	日: 国内企業物価指数 (12月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は、年初2年債の発行等により前営業日対比1兆9,500億円減少の541兆1,100億円から始まった。その後6日には10年債の発行や税保険揚げにより534兆7,200億円まで減少した。週末7日に国債買現先オペ等により537兆9,400億円まで増加して越週した。

無担保コールON物加重平均金利は年初、前営業日比+0.002%の△0.016%から始まった。週を通してビッドサイドのニーズは強く、同金利は日々上昇を続け、週末には△0.008%となった。

ターム物は1W~1M物を中心に、主に△0.02%~△0.001%の水準で出会いが見られた。

来週の主な予定は、国内で12日に日銀による地域経済報告 (さくらレポート) の公表などがあり、海外では、12日に米地区連銀経済報告 (ページブック) や、米CPIの公表などが予定されている。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.085 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

### <レポ>

足許GC取引は年初△0.07%~△0.065%近辺で始まり、国債買現先オペがオフアされた6日は△0.08%台まで低下した。週末は国庫短期証券の発行が重なるもレートは上昇せず、△0.08%~△0.075%で出会い越週した。SC取引は2年424~432回債、5年137~149回債、10年333~365回債、20年164~178回債、30年69~72回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.080 ~ 0.000

### <CP>

今週の入札発行総額は約4,900億円で、週間償還額 (約1,000億円) を上回った。発行市場は、卸売業や電気機器等の複数の業種で大型案件が見られたことから、マーケットは活況となった。発行残高は先週末の23兆5,674億円から、6日時点で25兆2,864億円に増加した。発行レートは、引き続き、希少銘柄等においては深いマイナスレートでの出会いも見られたが、大型発行案件については浅いマイナスレートでの出会いとなった。

来週の週間償還額は、約5,400億円程度となっている。発行市場は、事業法人の発行再開や期日継続が予定されるため、取引は活況が見込まれる。発行レートは、コロナオペ担保目的等の対象銘柄や希少銘柄等では、引き続き深いマイナスレートでの出会いを予想する。14日に、CP等買入オペが5,000億円で実施される予定となっている。

### <TDB>

1月5日の3M1048回債(2022年4月4日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1078% (前回債△0.1098%)、平均落札利回り△0.1181% (前回債△0.1128%) となり、1月6日の6M1049回債(2022年7月11日償還)の入札は、最高落札利回り△0.0987% (前回債△0.1062%)、平均落札利回り△0.1068% (前回債△0.1082%) となり、1月7日の3M1050回債(2022年4月11日償還)の入札は、最高落札利回り△0.0993% (前回債△0.1078%)、平均落札利回り△0.1054% (前回債△0.1181%) となった。